

## 天に名を記されて

学院宗教主事 平賀 真理子

<sup>18</sup>イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。<sup>19</sup>蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。<sup>20</sup>しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」喜びにあふれる<sup>21</sup>そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。<sup>22</sup>すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに、子がどういう者であるかを知る者はなく、父がどういう方であるかを知る者は、子と、子が示そうと思う者のほかに、だれもいません。」<sup>23</sup>それから、イエスは弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。「あなたがたのしているものを見る目は幸いだ。<sup>24</sup>言っておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見る事ができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。」

ルカによる福音書 10 章 18-24 節

今日の聖書箇所は、新約聖書の中のルカによる福音書の一部です。イエス・キリストが、お弟子さん達 72 人を福音伝道のために派遣して、その結果の報告会といった状況だと想像していただければよいかなと思います。

新約聖書に馴染みのある方は、イエス様の重要な弟子としての 12 使徒の派遣という話を聞いたことがあるかもしれません。このルカによる福音書でも、この 1 つ前の章に 12 使徒の派遣が書かれています。その 12 使徒の名前は、一人一人、福音書に記されています。

ところが、今日の 72 人の弟子達は、イエス様から同じように派遣されてはいても、彼らの名前は残されておられません。それでも、イエス様が、御自分の福音宣教の先遣隊として彼らを選んだと、同じ 10 章の 1 節-12 節に書かれています。そして、福音伝道する時の具体的な傾向と対策のようなことも 12 人の時と同様に細やかに指示を出しておられます。

72 人の弟子達の伝道報告会で、彼らは、イエス様と同じように「悪霊を追い出すことが出来た！」と言って、喜びの報告をしています。恐らく、福音伝道に出るまで、彼らは自分自身が、イエス様と同じような、悪霊祓いといった凄い力を発揮できるなどとは予想していなかったでしょう。でも、出来たのです。これは、恐らく、愛する弟子達が、厳しい福音伝道に心折れることなく続けられるように、イエス様が御自分の権

威と御力を彼らに授けたのだと、主御自身が証ししてくださっていますね。でも、イエス様は御自分の支えを鼻高々に自慢なさる御方ではありません。弟子達が彼らなりに喜んで福音伝道を終えたことに安堵し、無事な帰還を喜んでおられると思われます。

一方、72 人の弟子達は、恐らく、一見派手な現象である悪霊払いが出来たことを非常に喜んで、自慢げに報告したのだらうと想像できます。イエス様は、悪霊の方に氣を取られてしまっている弟子達に対し、新しい見方、即ち、神様としての見方を教えてくださいました。

それが 30 節の御言葉です。ここは、このように言い換えることができるでしょう。「悪霊に氣を取られるのではない！ 天に居られる神様の方に心を向けなさい！ なぜならば、悪霊を屈服させたというだけで、神様があなた方を喜びの対象としているのではない！ 救い主が此の世に来て神の愛が行き渡る世界が始まっているということ、神様が一番伝えたいことを広める働きをあなたたちは行った！ それを神様が喜んでくださる！ だから、神様の御心に従った人々を記録する書物に、あなたがたの名前が記された！ それがどんなに素晴らしいことかを喜びなさい。」と教えてくださいました。

旧約聖書の世界では、神様の御心に適って働いた人々について、神様が永遠なる書物にその名前を記してくださるという思想があります。「命の書」と呼ばれています。聖書で証しされている神様は、此の世の時という枠に縛られません。だから「永遠なる御方」です。そして、その御方が御自分の御心に適った生き方をした人を「御自分の民」として記録し、その書物は永遠に残されると考えられています。神の御子・救い主であるイエス様に従う弟子達の働きは勿論、神様が大変お喜びになる働きです。だから、『命の書』に72 人の弟子達の名前が記され、その書物も、そこに記された名も、永遠に廃れることが無い！ それが何よりも、大いなる祝福である！」とイエス様は72 人に伝えたいのです。

そして、「命の書」を持っておられる「天の神様」だけでなく、神の御子イエス様御自身も、弟子達に対して、祝福の言葉を祈りの中で表明されました。更に、ここでも注目したいのは、彼らが福音伝道に従事したという実績だけを、主は評価されているのではないということです。むしろ、主から託されたご命令に従った、彼らの心の純真さ、幼子のような素直な心を、救い主が讃えてくださったのです。彼らは、イエス様こそ救い主という信仰を与えられ、その神様の恵みに応えようとする純真な心を持っているが故に「天に名を記された、救い主の証し人」として用いられたのです。此の世では無名である72 人の弟子達に対して、イエス様は「あなたがたに心を向けてほしいのは天に居られる神様です。此の世や悪霊ではありません。神様の恵みこそ、本来の人間の永遠なる喜びです！」と教えておられます。

さて、今の私達が置かれている立場を考えてみましょう。この出来事とはかけ離れた時間と場所に私達は生きています。現代の日本、即ち、聖書を知らない方々が大多数の国に生きています。そんな中で、この宮城学院は、基督教の教えを基に建てられ、今も基督教精神を尊重している学校です。そこで働くように導かれた私

達は、今日の箇所の 72 人の弟子達と似た状況にあると考えても良いのではないのでしょうか。この学校で働く事になった経緯は各々異なっているでしょう。それだけでなく、実際、此の世で働くには苦勞が付き物です。その苦勞ゆえに、今、落ち込んでいらっしゃる方もおられるかも知れません。しかし、永遠なる神の御子イエス様は、あの 72 人の弟子達に対するのと同じように、この学校で働くように導かれた私達も、神様の覚えの中に既に入れられていると伝えておられます。それに、イエス様は、私達罪多き人間の生きづらさを知りつつも、私達が神様を証しする学校のために行った働きを一つ一つ拾い上げて喜んでくださる御方でもあります。その御方が私達に「悪い者に惹かれてはならない。なぜなら、あなたがたは私の弟子として、此の世の次元を超えた天の次元で永遠に名を刻まれているのだから！」と保証してくださっているのです。何とありがたいことでしょうか！

キリスト教精神の行き渡る、この学院に呼び集められた私達は、悪い者の居る所に留まったり、陥ったりしてはなりません。天の父なる神様の愛を伝えたイエス様は、天に心を向けるように私達に勧めておられます。そして、神に従う純真な心を基盤にして、私達が各々の分野で誠心誠意働き、神様に感謝する時、そこに神の御心が実際に実現されており、それを神様がとても喜ばれると語られているのです。そう言われても、神様が喜ばれているかどうか分からないと不審に思う方は、今日の箇所をよく味わっていただければ、罪多き私達の心根と神の御子イエス様の心根がいかに異なっているかを感じることができるようでしょう。イエス様の弟子達への思いが溢れた実に美しい箇所です！一方、その麗しさに相応しくないとと思われるような、悪に惹かれる私達を、なんと、主なる神様が天からの恵みを知るように招いておられるのです。イエス様は、御自分を信じる人々が、御自分と同じように父なる神様と心一つになることを願い、そのために祈ってくださる御方です。

今日の箇所で、主は、人間の人生の目標は天の父なる神様の御心に覺えていただけることにあると示されました。元々は罪深いのに、私達は主の招きを受けて、主の御心である働きへと導かれた時点で、永遠なる主の民となる喜びへと導かれています。何の功績も無いのに、私達は知らないうちに「天に名を記されて」いたのです。今日、その大いなる恵みを知らされたからには、是非それに応えて歩めるように祈り続けたいと存じます。

(2025 年 2 月 26 日)